

81 人受診、陽性率 6 割台／青森市医師会・臨時発熱外来初日 町田医師「期待の大きさ感じた」

2022 年 8 月 14 日 東奥日報



新型コロナウイルス感染症の拡大を受け青森市医師会が始めた日曜・祝日の臨時発熱外来で、初日（7 日・日曜）の診療を担当したまちだ内科クリニック院長の町田光司医師が、東奥日報に当日の状況を明らかにした。発熱外来は 81 人の患者が受診し、クリニック周辺は来院患者の車で混雑した。医療スタッフや事務員らは、朝から夕方過ぎまで対応に追われた。新型コロナに感染しているかどうかを調べる抗原検査の陽性率は、6 割台に上った。

クリニックには、発熱外来に関する問い合わせが、前日の 6 日から寄せられていた。

発熱外来の診療時間は午前 11 時から午後 1 時までだが、当日の午前 9 時には予約が 70 人ほどに上り、一部の予約を断らざるを得ない状況になった。クリニックは普段から、日曜も診療日として開いているが、事務員が電話対応に手を取られるなどして、発熱外来以外の通常診療業務が滞る場面もあったという。

発熱外来を受診した 81 人のうち、抗原検査の結果が陽性となったのは 49 人。陽性率は 60.5% だった。町田医師によると、臨時発熱外来の日に限らず、ここ最近ではクリニックを訪れる発熱患者を検査すると、同程度の割合で陽性が判明している。

7 日は臨時の発熱外来、通常の外来患者も含めて、100 人以上を診療することになった。最後の患者が帰路に就いたのは午後 6 時ごろ。クリニックのスタッフが帰宅したのは同 7 時過ぎだった。

町田医師は「臨時発熱外来の初日ということもあり、患者さんの期待の大きさを感じた」と振り返り、「民間の診療所にとっては、日曜日に診療所を開けることそのものが大変。患者さんの受け皿が増えるよう、複数の医療機関が臨時発熱外来に対応したり、より多くの医療機関が発熱患者の診療に対応できるようになれば」と話した。